



「再生を確かなものに」と語る小野有理社長＝大阪市淀川区

点火コイル世界1位狙う

ダイヤモンドエレクトリックHD

グループ2社の再生も

ダイヤモンドエレクトリックHD（大阪市淀川区）が、中長期経営計画で、自動車機器の点火コイル世界シェア1位を目指す姿勢を鮮明にした。連結売上高1千億円の目標も設定。「倒産」状態だったグループ2社の「同時再生」への決意も計画に盛り込んだ。

同ホールディングスによ

生産拠点の集約化も図った。21年3月期末で706億円だった売上高の1千億円達成時期として24年3月期を想定している。

中核企業のダイヤモンド電機はもともと、米国の独占禁止法違反を背景に立ち行かなくなっていたが、16年に就任した小野有理社長が再生に着手。経営不振に陥っていた田淵電機も19年にグループ化し、「再生を確かなものにする」（小野氏）意向だ。（深田巧）

ると、点火コイルのシェアは13%で現在3位。首位の企業は20%前後を占めるが、2025年までに首位に並び立ちたい考え。品質の改善に努めた結果、顧客の自動車メーカーからの表彰が増えているという。

自動車機器をはじめ、電子機器、エネルギーソリューション各分野で事業戦略を打ち立てる一方、昨年は